

梅雨前線に伴う洪水に対し操作を実施

淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、活発な梅雨前線の停滞により、7月5日4時から5時までの1時間の雨量が36.2mmを記録し、降り始めの7月3日21時から8日4時までの総雨量が492mm（管理開始後最大）に達しました。

この降雨により、ダム流入量が増加し、5日6時50分には洪水量（毎秒150立方メートル）に達しました。

5日23時50分には、流入量が最大（毎秒1,258立方メートル）となりましたが、流入量の約88%（毎秒約1,109立方メートル）を低減させ、同時刻におけるダム流下量を毎秒149立方メートルとしました。

操作の概要

	流域平均 総雨量	ダムへの流入量が 最大となった時刻	同時刻における ダムへの流入量	同時刻における ダム流下量	同時刻における ダム流下低減
日吉 ダム	492 mm	平成 30 年 7 月 5 日 23 時 50 分	毎秒 1,258m ³	毎秒 149m ³	毎秒 1,109m ³ (約 88%)

今回の記録的な豪雨に対して、操作ルールに基づき、洪水量を減少させ、ダムが満杯に近づく中でも、流入量を上回る流量とならないような異常洪水時防災操作を、6日4時5分から開始しました。

この操作は最大のダム流入量を記録した平成25年9月16日の台風18号洪水以来となります。

この一連の操作で、ダム下流の保津橋地点（ほづばし 亀岡市保津町下中島地先）の最高水位は5.34mとなりました。もし、ダムが無かった場合には、同じ保津橋地点の水位は旧堤防高の6.10mより上昇していたと推定されます。

保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が 最高水位となった時刻	同時刻における 保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同 地点の最高水位(推定)	水位低減効果 (推定)
平成 30 年 7 月 6 日 19 時 30 分	5.34m	6.10m以上 (保津橋地点の旧堤防高)	約 0.76m以上

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

位置図



管理開始（平成10年4月）以降の総雨量が大きい主な出水と今回の記録

順位	出水名	流域平均 総雨量 (mm)	最大 流入量 (m^3/s)	最大流入時 流下量 (m^3/s)	最大流入時 貯留量 (m^3/s)	最大放流量 (m^3/s)	調節総量 (km^3)
1	平成30年 7月 梅雨前線	492	1,258	149	1,109	907	43,374
2	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546	504	44,552
3	平成27年 9月 台風11号	313	773	148	625	150	33,015

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、総雨量が大きい方から3番目までを記載しています。

※ 数値等は速報値であり、今後の精査により変わることがあります。

日吉ダム 梅雨前線に伴う洪水に対し操作を実施

■淀川水系桂川の日吉ダム流域では、活発な梅雨前線の停滞により、1時間雨量で最大36.2mm、降り始めからの総雨量は492mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒1,258立方メートルを記録しました。

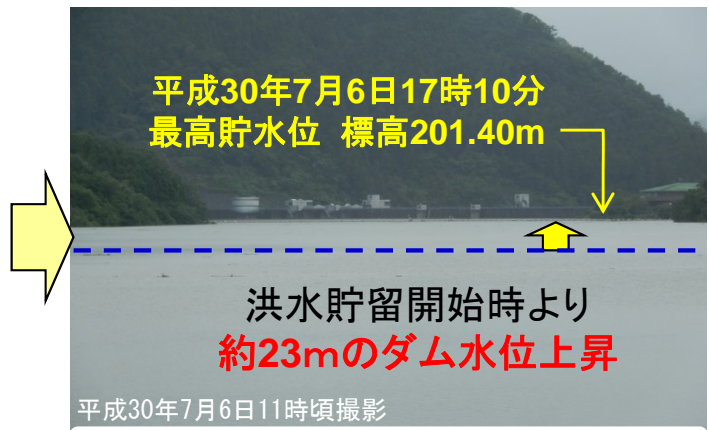
■日吉ダムは最大流入時に、ダム流下量を流入量の約88%（毎秒1,109立方メートル）を低減しました。一連の操作で、京セラドーム大阪※約36杯分（4,337万立方メートル）の水をダムに貯め込むことにより、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の最高水位は5.34mとなりました。もし、ダムが無かった場合には、同じ保津橋地点の水位は旧堤防高の6.10mより上昇していたと推定される。（※京セラドーム大阪の容量を120万立方メートルとして算出）



● 最大流入時に、ダム流下量を流入量の**約88%を低減**し、京セラドーム大阪約36杯分以上の水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

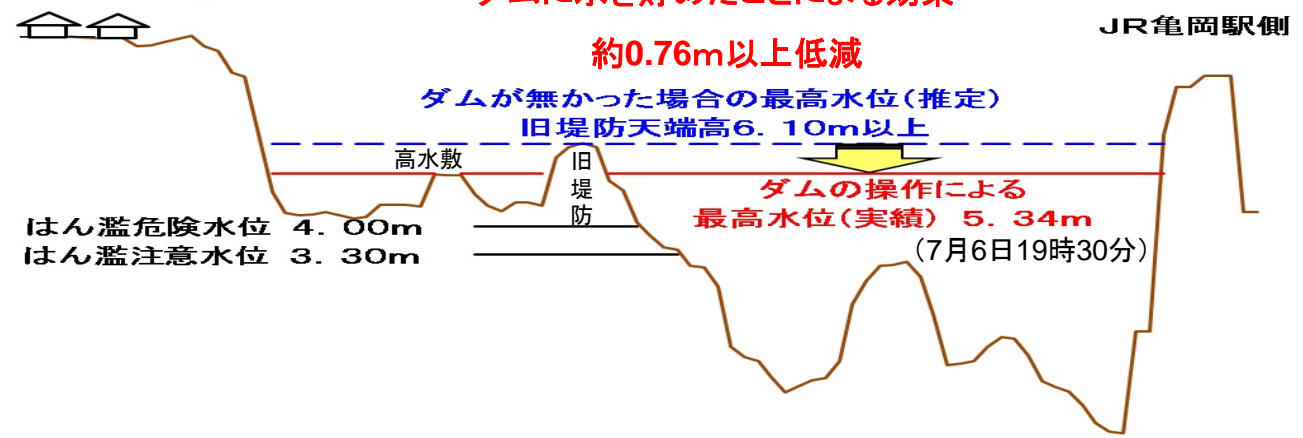


洪水貯留前



洪水貯留後

● 保津橋地点（保津川下り乗船場付近）
保津小学校側



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。